

ほっと♡笑媛

2018.7 発行
vol.15

<http://ehime-cms.com/>



～目次～

- P2—**ご挨拶**
理事長 河本 圭仁
- P2—**報告**
総会および研修会の報告
＜特別講演＞
- P7—＜トークセッション＞
- P10—**あ！運・進**
- P11—**エッセイ**
ほっと♡エピソード
お知らせ
事業所表彰
- P12—**ご案内**
●研修予定
- P12—●小規模ネットワーク学習会予定
- P13—●Gネットワーク学習会予定
●デネットワーク学習会予定
●各種研修のご案内
- P14—●各種研修のご案内
- P14—●県内事業所の紹介
- P15—●会員事業所名簿
- P16—●私の1冊
●うちのかんばんリレー
●ちょっとおでかけ
おすすめスポット紹介
●編集後記



愛媛県イメージアップキャラクター みきゃん
許可番号 29えひめ国体・大会承認第1-55号

「大好きなお寿司、いつもよりお箸もすすみます(102歳)」 写真提供:グループホーム 上の茶屋

一般社団法人 愛媛県地域密着型サービス協会

〒790-0056 愛媛県松山市土居田町23-5 烏谷ビル2F
TEL 089-989-2550 FAX 089-989-2557 E-mail: info@ehime-cms.com



この度、西日本を襲った豪雨により、県内でも南予地区を中心に大規模災害が発生いたしました。被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く元の生活を取り戻すことができますよう心より切に願っております。

さて、皆様に於かれましては、日頃より当協会の活動に、多大なるご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。先般、介護保険法改正が発足され「地域包括ケアシステムの強化」を大きく打ち出した訳ですが、今だ介護人材不足が顕在化している中、地域密着型サービスの会員事業所に於かれましても、ご苦勞されている所も少なくないと思います。取り巻く環境は、時代と共に必ず変化します。どのような環境下であっても、事業所の質を向上させようという志を持ち、地域密着型サービスとしてのそれぞれの大切な役割について、「変えるべき事」、「守るべき事」を再確認ながら、共に前へ歩を進めていただきたいと切に願っております。そのために、愛媛県地域密着型サービス協会は在ります。当協会の目的であります「会員の質及び資質の向上を図る」ため、全力で皆様のお役に立てるよう、今年度も精一杯努力してまいりますので、これからも、どうかよろしくお願い申し上げます。

■ 総会および研修会の報告



参加者：総会 145事業所 研修会 185名

(当協会会員事業所、行政、各関係機関・団体、その他各種介護サービス事業所等)

4月27日、テクノプラザ愛媛本館(松山市久米窪田町)で平成30年度の通常総会を開催しました。

その後の研修会では、愛媛県長寿介護課から「平成30年介護保険制度改正のポイント」について、そして特別講演として大谷るみ子氏(グループホーム「ふあみりえ」ホーム長・福岡県大牟田市認知症ライフサポート研修会代表)に「当事者に学び共に築く地域づくり～地域密着型サービス事業所の取り組み～」というテーマで、ご講演いただきました。

また、今年度は各地域の行政担当者をお招きし、「共に支え合う地域づくり～わが地域の取り組みと地域密着型サービス事業所に期待すること～」と題してトークセッションを行いました。

平成30年度
特別講演

「当事者に学び、共に築く地域づくり」

グループホーム「ふあみりえ」ホーム長 大谷 るみ子氏



大谷 るみ子氏

福岡県大牟田市認知症ライフサポート研修会代表。

看護師、病院勤務、特別養護老人ホームの介護・看護部長などを経て2001年からグループホーム「ふあみりえ」ホーム長。

福岡県の大牟田市からまいりました大谷です。私も事業所の職員ですので、今日は同じ目線でお話できたらいいと思います。前半は「当事者に学び」ということでケアについてお話しし、後半、大牟田の「まちづくり」の話をさせていただきたいと思います。

■ 地域密着型サービスの特徴とケアの原点

まず、地域密着型サービスや認知症ケアの基本や考え方についておさらいしたいと思います。いまさらですが、主体は利用者だということ、本人が培ってきた家族や地域社会との関係の継続、そして本人ができることに着目しているか、それまでずっと暮らし

てこられた継続的な生活の支援、しかも地域のなかでそれがちゃんと支えられているだろうか、ということを考えていく必要があると思います。

そしてケアについてですが、本人が主体であるということは、やはりとりもなおさずパーソン・センタード・ケアなんだろうと思うんですね。互いに人として認め合うことができるような支援が必要だと思うんです。パーソン・センタード・ケアを改めて考えると、人や社会とのつながりの中で実現できるものなんですよ。施設の中だけでとか、ケアの世界の私たちだけで、なんていうことは全くないんです。人や社会と

のつながりの中でこそ、叶えられるケアだと思うんですね。そして、やがては私たちも通る道ですから、本当に当事者の声や希望に寄り添うことができるように、私たちにできることを考えていきたいなと思います。

基本中の基本のケアについて室伏君士先生は、「その人の生き方を知り、その心に添って、少しでも知的に生きられるように手助けすること」と、1985年におっしゃっています。その人の心に添う、やっぱり本人主体なんですね。本当にご本人の意志や自己決定を尊重しているのか、ご本人のニーズや実現したいことを満たしているのかということです。「知的に」と室伏先生は教えてくださいますが、私はこの「知的に」ということをできるだけ自分でわかる、できる生活というふうに解釈しました。自立支援ということになると思いますが、力を発揮し、役割が持てる生活の支援ということです。認知症ケアを改めて考えると、私たちのケアの原点がここにあるんじゃないかと思います。これなくして、「まちづくり」なんてないんです。「まちづくり」をする時の心や原点は何かというと、認知症の方に向き合う私たちの姿勢だったり、認知症の方がどんな暮らしを実現できるのかということだろうと思います。

■“パーソン・センタード・ケア”を地域の人に伝えよう

“パーソン・センタード・ケア”で、認知症の人の心理的な5つのニーズというのがあります。これを地域の人にちゃんと説明できないと駄目なんですよ。私たちがわかっているだけでは駄目です。なぜかという、人や社会とのつながりの中で実現しなくてはいけないので、地域の方にどれだけこれが伝わるかということだと思っんです。(図1参照)

一つ目の『慰め』、これはリラックスできるということなんですね。

認知症の「人」に優しい社会

認知症を持つ「人」の心理的ニーズ



認知症であってもなくても、大切にしたい“思いやり”

(図1)

“くつろげる”というニーズなんですが、例えば、認知症の方が地域の会合に行かれた時に、「リラックスできるような場所や休憩できるようなことをちょっと考えてくださいね」と言うだけでこのニーズが叶うんですよ。

二つ目は『自分らしさ』ですね。これは言わなくても地域の方はわかります。この人は昔からこういうことを一生懸命やっていた人だとわかっておられるんですね。だから、「とてもそれが大事なんです」と伝えてください。

三つ目は『携わること』。これは、力や役割の発揮ですよ。認知症になっているいろいろなことがもう難しいという状況が生まれたとしても、この人ができることはいっぱいあります。得意技をぜひ活かしてもらってください。そして、共にいることがとても大事です。地域の一人だし、仲間なんです。昔から一緒に過ごしてきた人なんですから「仲間としてのお付き合いを続けましょう」とお話ししてください。

四つ目は、愛着という『結びつき』なんですけれど、ご本人は親しい人たちや大切な人たち、なじみの場所や物とのつながりを大事にしたいと思っていらっしゃるんです。“パーソン・センタード・ケア”は、人や社会とのつながりの中で実現できるケアなので、地域の中でこの心理的なニーズを「認知症の人に優しい社会のまなざし」として伝えていくことが大事だと思います。伝えられるのは、地域密着型サービスの人ですよ。「何でも自分たちで」ではなく、みんなとつながってつくっていく、支えていくということが大事なじゃないかなと思います。



■地域密着型サービスが果たす役割

今、地域包括ケアのその先、新たな地域包括ケアだと盛んに言われている「地域共生社会」に向かっています。その地域共生社会であっても、地域密着型サービスがかなり役割を果たせます。地域密着型だからこそ果たせることがたくさんあるんですね。

特に着目したいのが私たちの一番の特徴である専門性の向上です。専門性の発揮がしっかりできないといけないし、他職種がつながることが大事です。今回の介護報酬改定でかなりクローズアップされましたが、医療ニーズへの対応も「自分たちで」ではなく、他職種がつながって実現できないといけないし、地域とのつながりも、もっともっと深めていく必要がある。なんだか、高齢者や認知症の方だけが対象じゃなくなりますよね。

地域には「8050」問題などいろんな課題があって、小規模多機能で地域とかかわっていくとそういう相談事例とかたくさん出てくると思うんですね。ですから、やっぱり、地域社会のニーズに対応していくことが求められると思います。そのなかでも、専門性は大事にしたいです。

■“はやめ南人情ネットワーク”の取り組み

認知症の模擬訓練、ご存じですか。愛媛県でも盛んにやっておられると思いますが、私たちのグループホームがある地域は、模擬訓練発祥の地です。“はやめ南人情ネットワーク”はかなり全国で有名になりましたが、この発祥の地が、なんと私のグループホームのある校区なんです。この模擬訓練をやるうと言ったのは、私なんです。地域のネットワークをつくるのも大事なことで、その中で認知症の方々が一緒に交流しながら地域で暮らす、人や社会とつながって暮らす、ということを実現していくことが重要だと思うんです。

世代間交流、盛んにやっていますよね。うちもいろんなことをやって、周りの小中学校とのつながりをバッチリつくってきましたが、なぜつくるかというと、「子どもたちが来るといいよね。お年寄り、喜ぶからね」というだけじゃなくて、子どもたちとのつながりが日々の生活支援になるんです。子どもたちが来るときに、その子ど

もたちへの贈り物をあげたくて、2週間毎日頑張って贈り物を作ります。日頃は何もしたくない方々が喜んでされます。また、中学校の選択科目の授業をうちのお年寄りが一緒に受けるということをして3年ほどやりました。その結果、運動会の種目の中に「ファミカイ」という種目ができたのですが、町中がファミリーになるようにと中学生がつけたということでした。世代を超えて交流するということ、実は日々の生活支援につながっていくということが大切じゃないかなと思います。

■運営推進会議を活かした地域の輪づくり

日常の地域との交流はもう当たり前ですよね。だんだんと食事をつくらないグループホームも増えてきました。お買い物も行ってないグループホームも本当に増えてきたんですけれども、日常の地域との交流を欠かさずやっていくことが、一步一步、地域をつくることにもつながっていくんじゃないかなと思います。

運営推進会議の活用は、かなり二分化するようですね。とても活かしている所と、苦になって仕方がない所があるようです。日常の業務だけでも大変なのに、運営推進会議どころじゃないぞ、という気持ちもわかるんですけど、私たちだけではできない部分も運営推進会議を通してさまざまな力になってくださる方が増えていくんですね。今年も防災訓練を一緒にやります。訓練のあとの反省会では、これが必要、あれが必要と言われて、結構できないことをいっぱい言われるんですけど、一つずつ実現していきました。こんなふうに私たちが日常やっていることが、実はすべて地域をつくることにつながっているんじゃないかなと思います。

■地域支援の拠点として可能性を広げよう

地域密着型サービスは、地域とつながっている点からやれることはたくさんあるんじゃないかなと思うんです。例えば、自動車販売店や運送会社は、人が足らなくて困っているんです。私たちの所は、デイサービスで元気な人は、単なるアクティビティでは物足りなくて、働きたいと思っているんです。若年性認知症の人たちは収入を得たいんですが、一方で働く場所がないんですね。ところが、運送会社は配達をして欲しいわけなんです。そこで、この二者を結び付けました。リハビリ強化型デイサービスでは、自動車販売店の洗車応援隊になりました。また、小規模多機能ホームが農園と契約して農園の草取りなどをしたり、運送会社の近所配達員をしたり、認知症デイではすぐ近くのコインランドリーの清掃を任せました。これからは事業所の中でアクティビティする時代から地域にどんどん出て行き、社会資源を活かしながら、あるいは創りながら担っていく。地域密着型サービスはもっと視界を広げて、地域のあらゆるところに何か宝物があるかもしれないと考えていく時代になってきたんじゃないかなと思います。地域支援の拠点として、私たちの可能性を広げる、これからはこういったことにも目を向けていただきたいと思います。



■大牟田が取り組んできたまちづくり

【意識づくり】

大牟田がやってきたまちづくりは、まずオールドカルチャーからニューカルチャーへと意識を変える取り組みでした。意識が変わらないと何ごととも実りません。他人ごとの社会から我がごとの社会になって欲しい。病気や症状にばかり着目せずに、認知症でも豊かな心や力は残っているし、本人理解がとても大事であること、そして「人」にフォーカスして地域全体で支えていくんだということを盛んにやってきました。その方法が、模擬訓練や絵本教室、サポーター養成講座だったりしたんですね。

絵本教室は平成15年から始めた大牟田が誇る主な活動です。『いつだって心は生きている』という絵本ですが、これを使って小中学校の絵本教室に出かけています。子どもたちは、わずか90分でもちゃんとわかってくれます。これまで1万人以上を超える子どもたちが学んでくれましたが、社会人になった子どもたちは、大牟田のいろんな取り組みに参加してくれています。この子たちのなかには、医者や介護職、市役所の職員になった子もいます。

【人材の育成】

認知症コーディネーター養成研修は、大牟田市が全国に先駆けて始めた専門職向けの研修です。人に着目したケアができ、牽引できる、そして地域をフィールドにして活動できる人材を育成するということです。2年間で400時間履修するこの研修の受講を、

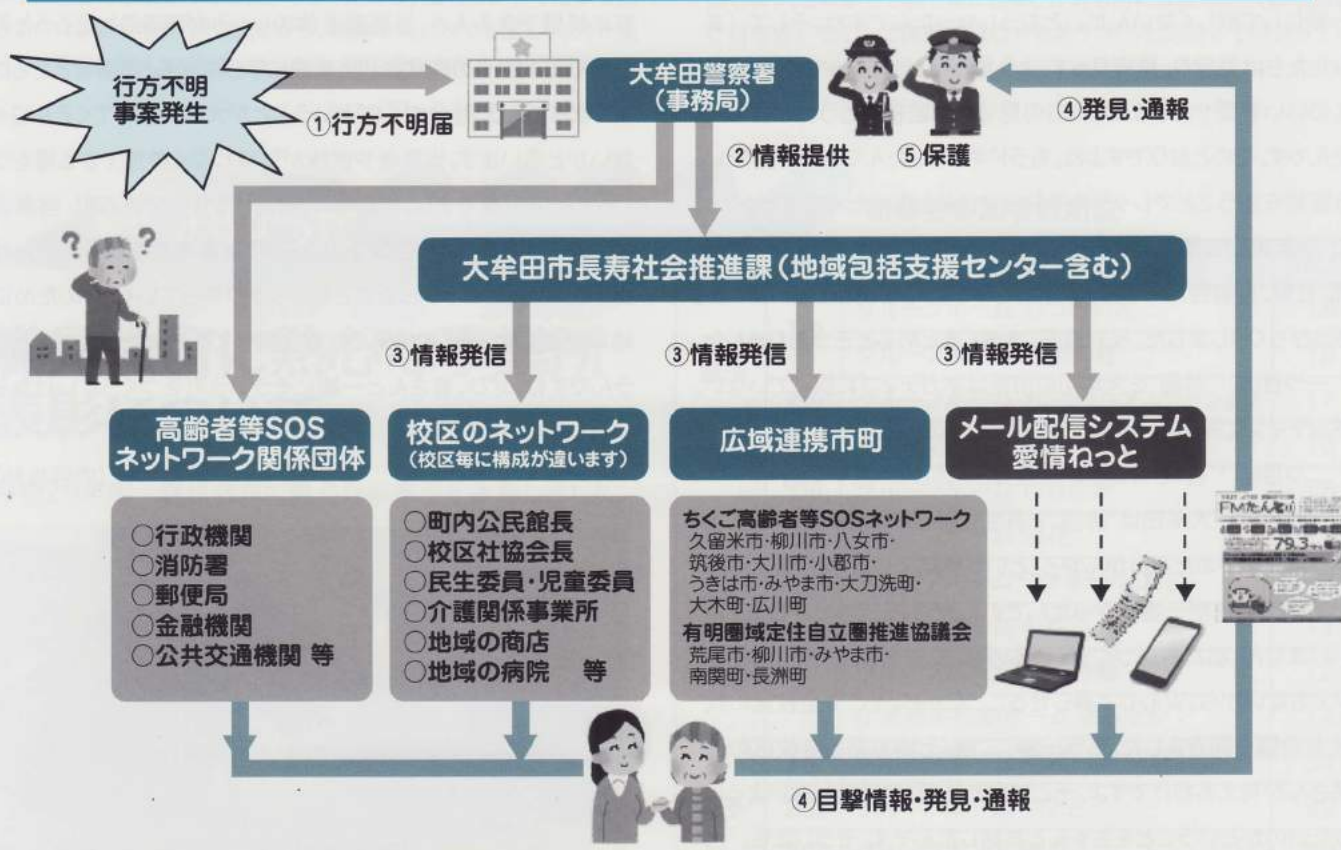
市は平成18年からグループホームと小規模多機能に義務化したんです。今年で終了しましたが、地域の認知症ケア拠点には2年間に共にし、共通理解とベクトルを合わせられる仲間がいるということでもとても大きな意味がありました。地域包括支援センターにはこの研修の修了者が必ずいることとしています。

【模擬訓練の深化】

模擬訓練は、私のグループホームがある校区から始まったのですが、今年15年目の模擬訓練を行います。たった1校区から始まったのが全校区に広がって、なんと全国に広がった訓練です。この模擬訓練、私たちのサービスにとっても重要なことがあるんですね。それは何かというと、地域で暮らしている姿を応援するのが一番の目的なんです。だから、地域密着型サービスで支え続けている目的と合致しているんですよ。できるだけ地域で粘って暮らせるように、住み慣れた地域で暮らせるようにという支援をしているわけですね。模擬訓練はそれが目的で、セーフティーネットワークだけが目的じゃないんです。実は、日頃から暮らしている姿を応援するという目的のために、いざという時のセーフティーネットワークをつくらないといけないんですね。

だけど多くのところが、セーフティーネットワークだけつくろうとするんです。セーフティーネットワークだけつくらなければ、模擬訓練は3年もすれば十分です。だけど、大牟田は15年続いているんですね。誰も、もうしないと言わない。それはなぜか

大牟田市ほっと・安心ネットワーク図



という、模擬訓練を通して見える生活のリスクの課題にしっかり目を向けているからなんですね。車の両輪として考えていくことが大事で、私たちが応援している目的と合致しているわけです。だからこそ、地域密着型サービスは盛んにこの模擬訓練というのを押し進めているわけです。

大牟田では3000人規模の訓練をしています、参加している人はやっぱり一部なんですね。オールドカルチャーのところはまだあります。「もうこんなに歩かれるんだったら、施設に入ったほうがいいんじゃない？」という地域の人がいっぱいいます。そこで、一緒に地域ケア会議をしながら、「いや、この人はこういう人で、この人のこんな力を生かして暮らして欲しい」ということをしっかり言って、みんなで支えるということをやっていくわけですね。裾野を広げていくということが大事なんです。

2015年から、大牟田市は“徘徊”という言葉を使わないと決めました。その理由は二つあります。

一つはJR東海の列車事故の裁判の行方です。あの裁判から全国でこのことが問題になりました。毎日のように新聞をにぎわして、なんと、認知症＝徘徊＝問題＝社会的排除ということが全国で起こりました。まったくオールドカルチャーです。それで、大牟田はあえて徘徊と使っていたけれども、これは考え直さなきゃいけないと思ったんですね。

もう一つは、大牟田でできた本人交流会の当事者の声です。当事者が模擬訓練の視察者の前で「え？なんで徘徊って言うんやろう。徘徊というのは、当てもなくウロウロさまよい歩くことやろう。俺たちは徘徊じゃないよ。今どき、当てもなく歩くのは若者じゃ。自分たちの徘徊じゃない。当てはある。ただ、すぐ忘れる。だから、一緒にして欲しくないんだ。」とおっしゃったんですね。そして、「あなたたちは見守り、見守りって、よう言うね。見守りって、耳に聞こえのいい言葉やね。あんたたちの見守りは監視やろう。」と言われたんです。そのとおりですよ。もうドキッとしたんです。“徘徊”という言葉を使うことでレッテルを貼っていると思ったんですね。そこで「今年度から使いません」と市が打ち出したんです。すると、民事局、社協、自治会、すべて反対されたんですよ。なぜだと思いますか。もうびっくりしました。反対意見、大きくまとめると三つありました。

一つ目は、「“徘徊”を大牟田の市民はネガティブに捉えていない。ポジティブに捉えているからいいじゃないか。」という意見。

二つ目は、「“徘徊”のほうが、緊急性が感じられていい。」

三つ目は、「大牟田は“徘徊”で有名になったんだから、“徘徊”という言葉をやめたらいかんやろ」という意見でした。笑い話のようですが、これが一番多かったんですよ。だけど、これでひるんではいけません。私たちがつくっているのは、模擬訓練でもネットワークでもないから。安心して暮らせることだから。そこで全校区の代表者会議を開きました。もう一癖、二癖、七癖もある全校区の住民さんが見えるわけですよ。そこで市と私が、なぜ使わないようにしたいのかということをお話したんです。そうしたら、「当

事者の団体ができたのは知らなかった。当事者が言われているんだったら、当事者の尊厳を大事にしよう。」「自分たちの取り組みは常に子どもたちと一緒にやっている。子どもたちに人権をちゃんと伝えたい。」「本人を目の前にしたら使いにくい言葉だということがわかった。」「同じ言葉、同じところにとどまらず、時代のニーズに応じて変えていこうじゃないか。」という意見が出ました。皆さんの視点がぐっと変わった会議でした。

“徘徊”という言葉を遣わないと決めた年に、模擬訓練のスローガンは「認知症でも安心して外出できるまちづくり」になりました。そして、2017年、「認知症であろうとなかろうと、皆で繋がって前へ進もう!」というスローガンになりました。これは当事者がつくったスローガンです。

その当事者の会が大牟田にあるんですね。「ぼやき・つぶやき・元気になる会」といいます。この会では、月1回の定例会をして、仲間づくりや社会参加活動をしています。実は去年から、メモリーウォークをやっているんですが、市民や子どもたち、熊本県の当事者チーム、大分県、長崎県、福岡市、神奈川県などからも有志の方たちが参加されて、みんなでゴールを目指しました。去年のスローガンは「認知症であろうとなかろうと、皆で繋がって前へ進もう!」でしたが、今年は、「認知症は特別じゃない。普通に、あたりまえに生きていく。そんなでっかい社会をみんなでつくろう」で、当事者の発案です。今年の模擬訓練は多分、それがスローガンになると思います。

■おわりに

認知症に優しい地域をつくるということは、この当事者の気持ちに共感できる人と、当事者主体のしくみがあることだろうと思います。これからの時代は、“当事者に学びながら、当事者とともに築くまちづくり、社会づくり”ということが大事になってくるんじゃないかと思います。当事者や家族が気兼ねなく参加できる場をつくるのが大事です。当事者が安心して外出できる町、当事者の力を活かし働くことを保証できる町、当事者が堂々と発信し社会参加できる、こういったことをしっかりやっていく、そのために、地域密着型サービスが果たせる役割ってものすごく大きいと思うんですね。ぜひ、皆さんと一緒にそういう町をつくってほしいなと思います。

(内容抜粋)



共に支え合う地域づくり わが地域の取り組みと地域密着型サービス事業所に期待すること

【コーディネーター】 聖カタリナ大学 人間健康福祉学部教授 恒吉 和徳氏

【パネリスト】 愛媛県長寿介護課介護研修係長 瀬野 誠二氏

新居浜市地域包括支援センター所長 古川 哲久氏

松山市保健福祉部介護保険課主幹 橋口 徳則氏

宇和島市地域包括支援センター所長補佐 岩村 正裕氏

【ゲストスピーカー】 グループホーム「ふぁみりえ」ホーム長 大谷 るみ子氏

(敬称略)



恒吉: 皆さん、こんにちは。聖カタリナ大学の恒吉と申します。地域包括ケアシステムとか、共生社会とか、我々は耳慣れしてきているんですけど、これを具体的に実行していく、形として移していくとなると、なかなか難しいんですよね。医療、介護、

予防、暮らし、それから生活支援、これらを一体的に進め、できるだけその方が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるためには、一部分のところだけの力では限界があるわけです。地域にある社会資源がしっかりとつながりをつくって、地域全体で支えていくということをしなければ、この地域包括ケアシステムというのは本当に絵に描いた餅で終わってしまうと思います。これから先、行政そして地域包括支援センターというそれぞれの立場から、共に支え合っていく地域をつくるにはどうしたらいいのか。そのなかで、地域密着型の事業所にこういった役割が期待されるのか、事例があれば事例も交えながら、お話いただきたいと思います。



瀬野: 愛媛県長寿介護課介護研修係の瀬野と申します。国も県もいろんな制度をつくるんですけども、どんなに制度を使っても、どうしてもそこから転げ落ちてしまう人はできてしまう。行政としても、限られた予算のなかで一生懸命、

努力はしていると思っています。だけど、そういう限界があるなかで、どうやって抜け落ちる人を救うか。最後にはやっぱり地域の力でということで、今、地域共生社会や包括ケアという話が出てきているんだと思います。

私は今治市に住んでいまして、そこに「なみっこ交流館」というのがあり、児童館と保健センターが入っています。市町村合併に

より、施設がすごく重荷になり、施設を統廃合することになりましたが、なみっこ交流館の利用者が少なくなり、突如、今治市より閉鎖するという話が持ち上がりました。しかし、地元としては、立派な建物であるし是非残して欲しいということで、署名運動などいろいろなことをやった結果、取りあえず、今いる職員の人件費と施設の運営費を期間限定で付けるので、他地域のモデルになるようなことをするという条件で、施設が地元の下りにまいました。

それまで児童館と保健センターという枠の中でしかできなかったことが、それがなくなったことでいろんなことができるようになった。もうこれはチャンスだと思っていて、児童館ではできなかったことをいろいろやるようにしたというところなんです。児童館でしたので、児童、子どもたちの事業がメインなんですけど、高齢者向けの事業も考えています。竹林・森林整備というのがあって、高齢者の男性に山に入ってもらい放置竹林などの手入れをしてもらうということを、今年県の補助を取ってやろうとしています。皆さん、前向きにやってくれるんじゃないかなと思います。

恒吉: 「なみっこ交流館」は、私も先月今治でフォーラムがあった時に一緒にさせていただいて、活動内容をお聞きました。地域に核となるリーダーの方がおられ、地域住民やさまざまな事業者を巻き込みながら一生懸命、意欲的に取り組んでいらっしゃる。その方は、この「なみっこ交流館」が、地域のいろんな人たちの居場所になればということを考えておられるようでした。

“居場所”というのは、その人、その人によって違うんですね。我々はとくく、“居場所づくり”というと、体の置き場だけを考えてしまうのですが、実は、居場所というのは心の置き場をつくってあげることだと思うんです。単独の事業者だけでそういう居場所づくりをやろうと思うといういろんな面での負担、限界がありますが、地域にあるさまざまな資源がお互いにできることを出し合っていけば、いろんな意味での居場所づくりができていくのではないかなと思います。

岩村: 宇和島市地域包括支援センターの岩村です。今、当市では平成29年度から“我がこと・丸ごとの



地域づくり推進事業”を実施しております。これは、他人ごとが我がことになるような環境整備と、いろんな相談ごとを丸ごと抱えるしくみをつくりましょうという事業です。この事業は、地域の困りごとを分析して、地域の社会資源、これは自治会でも、民生委員でも、NPOでも、企業でもなんでもいいんですが、その方々で解決していくしくみをつくるというものです。実施法人には、あくまでコーディネート役として、地域の住民の声を聞いてその地域の住民で解決するすべを見つけてくださいとお願いしています。

今、私たちがやろうとしているのは、地域で共に支える社会づくりですが、その概念と反比例するかたちで、地域のつながりの希薄化が進んでおります。事業者の枠を超えて、一度、地域の困りごとというのを見ていただきたいと思います。また、触れ合える時間を増やしていただきたい。私は、地域密着型の事業者さんに事業所の納涼祭や月見、お花見などに地域の子どもを参画させてくれないかとお願いをしております。子どもらは集まる場があれば喜びますし、そういう機会が欲しいというのは間違いありません。ぜひ、お子さんたちを加えていただきたい。地域では、子供が高齢者を支える場合もあれば、高齢者が子供を支える場合もあると思います。今よりもっといろんな方の社会参画の機会を増やしていただきたいと思います。スタッフが足らんという声もあろうかと思えます。そしたら、その地域の住民に手伝ってもらえばいいと思うんです。まずは、スタッフさん、それから利用者さん、それぞれに何ができるのかを考えながら事業を進めていけば、きっと自然と地域に根差した共生社会が各地でつくっていかれると思います。

恒吉: 行政ができること、皆さん方が行政に望むこと、地域の困りごとなどを一緒に語らう場ができていますでしょうか。事業所、地域住民、そこに行政が入ってお互いに地域の困りごとを確認し合い、それぞれが手を携えてできることを膝を突き合わせて語り合う場、それがいわゆる地域ケア会議です。包括や行政の方から、座談会や地域ケア会議の案内があった時には、ぜひ皆さんの事業所も積極的に関わっていただき、地域課題にしっかりと向き合うことで自分たちができること、やるべきことというのが見えてくるのではないかと思います。

橋口: 松山市の介護保険課の橋口です。当市は今、生活支援体制整備事業に取り組んでいますが、今年度から40地区すべてに設置している地区社会福祉協議会が主たるメンバーとなっている



協議体での会議を開催していきたいと思っています。協議体そのものが、地域の困りごとや新しいサービスの創設なども目的の一つですので、地区社協の方から皆さんの事業所にお声掛けがあった場合は、ぜひご協力いただき、そういっ

たところから地域へ入り込んでいただく。そこで皆さんのお力であったり、施設の活用であったり、地域でいろんなかたちで取り組んでいただきたいと思います。

認知症サポーター養成講座を当市でも実施していますが、受講後の活動の場をつくるべきではないかという声が多く出てきています。今、考えているのは、認知症サポーター養成講座を受けてもらった方には松山市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録してもらい、また施設の方も、話し相手などのボランティア募集を当センターへ出していただいて、そこでマッチングしていくということです。また、地域で暮らしていける支えを広げていきたいと生活支援体制整備事業にも取り組んでいますが、市としても地域との関わりの場に皆さんが入りやすい体制をとっていきたいと思っていますので、ぜひご協力をお願いします。

恒吉: 皆さん、「協議体」って一体何をするんだろうかということで、じっくりこないとこもあるかと思いますが、地域ケア会議と非常に似たような機能を持っています、いわゆる地域の課題を関係キーパーソンの方々としっかりと共有して、その地域の課題に対してどう解決していくか、多様なメンバーが集まって模索していきます。そのメンバーとして、地域で今活躍されている方々、あるいは支援を必要とされるような方々の声を拾っているであろう事業所の方々にも関わっていただき、いろいろ声を聞かせていただきたいという狙いもありますので、ぜひ皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

認知症サポーター講習に集まっていた方は、大なり小なり認知症の方々に対して関心を持っている人なわけですから、それを逃す手はないですね。そのまま放置しない。どんどん仕掛けていく。それは市であり、社協であり、場合によっては、グループホームもその役割を担うことができるんじゃないかと思うんです。認知症のケアに対するいろんなノウハウを持っていらっしゃるわけですから、そのノウハウを利用者だけではなくて、人材育成、情報発信、啓発など、地域に還元するということも可能なんじゃないのかな。一事業所だけではそれが無理だ、物的な制約もある、人的な制約もある、日頃の仕事でいっぱい、地域のことどころじゃないというのであれば、複数の事業所が手と手を携えて協力し合えば何かできるかもしれない。他法人や他事業所とのコラボ、あるいは、行政や地域住民とのコラボということを考えることで、何か光が見えてくる可能性もあるわけです。松山市も、サポーター講習が終わった人をさらに必要な社会資源として育成していくという気持ちはおありになるようなので、ぜひ、一緒に取り組んでいただけたらと思います。

古川: 新居浜市地域包括支援センター古川です。新居浜でも、小学校区で2校区、SOSネットワークの取り組みをしています。平成25年に校区内で行方不明者がご遺体で発見されるという痛ま



しい事故があったことから、二度とうちの校区で出たくないという熱い思いで始められた角野校区の「すみの見守り・SOSネットワーク協議会」では、大牟田市に2回研修視察に行かれ、模擬訓練に取り組んでおられます。

さて皆さん、行政ってなんでこんなに私たちに優しくないんだろう、というお気持ちをきっとお持ちだと思えますね。行政から何か送ってきたら、「えー、そんな話になっているんですか。前もって言うておいてくれたらいいのに」、というのはきっと多いと思うんですよ。なんでそういうことになるのかというのを、ぜひ知っておいて欲しいと思います。今、全国の市町村が置かれている立場というのは、もう一点突破が許されない時代なわけですよ。この成功事例、あそこの成功事例、全部やれって言われているんです。給付費総額が多い状態、総合事業が始まった。総合事業の事業費総額も、もう目いっぱいまでいっている。そうすると、総合事業で新たに創出するお金を使った事業は始められない。始められないのに、それを求められている。どうするんだという話になりますね。これ、新居浜に限ったわけじゃないんですよ。愛媛県はみんな一緒なんですよ。お金は使えないけど、何をしますかということをして市が問われていて、そうすると、うかつなことは皆さんに事前には言えないんですよ。制度のことは皆さんご存じだと思いますけど、市の事業はご存じない方が多い。市がどんな状況にあって、どんな事業をやろうとしていて、自分たちがそこうまくタイアップできる隙間はどこにあるのか、ということを考えていただきたい。

もう一つ、地域密着型施設であれば、自分の施設の周囲のことは、市内で一番よく知っているという施設になって欲しいと思います。あそこに聞いたら絶対に知っている、行ってみたらやっぱり知っていた、というのが私たちにとって一番心強い、皆さんの存在意義だと思っています。

恒吉: 地域には地域の個性、特性があって、同じではないんですよね。認知症徘徊の訓練もこういった方式がある、それをそのまま移してやろうと思うとどこかでかみ合わないところがあるわけで、あくまでもモデルはモデルで、自分たちの地域に合ったやり方を模索していくことが、負担をかけないでやれるんじゃないのかなと思います。そのためには、関係機関や関係者同士が、いろんな情報や現状を共有する場がなければそれぞれの地域に応じた取り組みはできないと感じています。

それでは、今までの話を聞いて、大谷先生からコメントをいただきたいと思います。

大谷: これいいなとか、このようにつながるな、と思ったことがありました。



最初に、県の方が面白くない仕事をされているということでしたけど、楽しそうなこともされていたよね。竹林のこととか「なみっこ交流館」のこととか。「居場所をつくる」ということが一つのキーワードだったような気がするんですけど、

その居場所はいつでも、何にでも変えられるので、面白がってやっていただきたいなと思います。児童館だったということですけど、それはそのまま認知症カフェにもなるし。そういうふうになると地域密着型サービスの力の見せどころでもあるので、大いに生かして、広げていただけたらなと思いました。

宇和島市の方が、「丸ごと社会」についてうまく説明していただきましたが、事業所と地域がつながると非常に力を発揮します。大牟田で模擬訓練が広がった背景には事業所がちゃんといることなんですよ。ぜひ、事業所と地域がつながるような、何かモデルをやられるといいかなと思います。市や県はパイロット的な何かをやる、或いは自分たちがやらなくてもやっている所を応援して、それをしくみ化して他に広げるという役割がおありだろうと思うので、ぜひとも、一ヶ所の面白い取り組みをしくみにして、少し慣らして、他に広げるといいんじゃないでしょうか。事業所と地域が一緒になるといいことがいくつもあります。

松山市のお話で、地域密着型サービスの参画を非常に勧めていただいたんですけど、「まちづくり協議会」ですか。これは大牟田にもあるんですよ。その「まちづくり協議会」があるのに、地域密着型サービスが入っている校区と、入っていない校区があるんですよ。入りやすくする、ということがとても大事なかなと思うんです。地域って生ものでいろんなことがあるので、やっぱり行政の方の力が必要なのかな、ぜひ入りやすくするような、何か仕掛けをしていただきたいなと思いました。

認知症サポーターの活用の話が出ましたが、それに悩んでいる自治体はとても多い。だけど、うまくいくんですね。大牟田は、模擬訓練に参加する人はみんな認知症サポーターです。だから、活用しなくても、もうまさに認知症サポーターの活動をしているということになります。福岡県の城南区には、「つつみカフェ」という有名なカフェがあるんですが、ここも認知症サポーター養成講座から始まって、劇団ができて、そのうち劇団だけでは飽き足らずコミュニティカフェになって、そこには当事者がどんどん来られるという場になっています。実はその場が「抜け落ちていた人たち」を支える面になっていますので、広がっていくなと思います。また、福岡では「ほっとかれん隊」というのがあって、そのエリアの事業所が集まって見守り隊をつくっているんですよ。事業所の連携というのは難しいと思うんですけども、事業所がやっているいろんな小さな取り組み、アイデア、あるいは、やろうとしていることを、ぜひ応援していただきたいなと思いました。

今日のこうした場、本当に珍しいですね。県とか市だけがトークするのって。昔は事業所とは対立軸でしたよ。今だってたまにそんなことがあります。交流会をやると、陳情されるんじゃないかと警戒をなさるんですけど。本当に事業所を応援してくださるんですね。対立型から協働型ですよ。そういうところから、事業所がどんどんいろんなユニークな取り組みを独自にやっていけるんで、ぜひとも協働型でやっていただきたいと思います。

恒吉: 地域密着型サービス事業の特徴というのは、利用者、家族、地域のつながりを重視した支援が可能だということに一番の特色があると思うんですね。地域との接点が増えれば増えるほど、利用者の日常はものすごく豊かになっていくのではないのかと思います。常にいろんな壁があると思いますが、原点をしっかりと大事にしながら地域とのつながりを大事にしていっていただきたい。地域のさまざまな資源とつながることによって、とかく一般の方々がいイメージしがちな閉鎖性が少しずつ改善されていくのでは

ないかと思います。

そのためには、やはり地域の課題と向き合うということが大事になってくるわけですが、地域には地域の強み、弱みがあり、皆さん方の事業所が持つ弱み、強みがある。それぞれが持つ強みと弱みを、いま一度、それぞれの事業所で分析していただきたい。そして、地域ケア会議などいろんな会議や外に出て行き、地域と向き合うことによって、自分たちの事業所があるその周辺の地域が持っている弱みや強みをうまくつなげる。ひょっとしたら、皆さん方の事業所が持っている弱みをその地域の社会資源とつなげることでカバーできるかもしれないし、皆さん方の事業所が持っている強みが、実は地域の持つ弱みをカバーしていくことにもなるかもしれない。そういうつながりができていくと、きっと“地域包括ケア”とか、“地域共生社会”というのは、絵に描いた餅ではなくて、現実的なものに少しずつ近づいていけるのではないのでしょうか。また明日から、いろんな資源とのつながりを意識しながら、各事業所で取り組んでいただきたいと思います。

(内容抜粋)

あ みんなの運営推進会議

うん しん 運・進

おおむね2ヶ月に1回開催することが義務付けられている運営推進会議ですが、そのテーマ(議題)や進め方に頭を悩ませているという声をよく耳にします。そこで、運営推進会議の内容や工夫していることなどを皆さまから募り、紹介させていただくことにいたしました。

地域密着型介護老人福祉施設 三島の杜 施設長代理 十川 広太郎

当施設は、平成26年3月31日に開設しました。

ショートステイ、グループホーム、共用型デイサービス、認知症対応型デイサービスを併設していますが、効率よく運営するために、運営推進会議を合同で開催しています。通常、グループホームと特養の事業所で行いますが、6ヶ月に1回、共用型デイサービス、認知症対応型デイサービスも加わっています。会議内容は、それぞれの事業所の運営状況などの報告と勉強会になっています。勉強会では、市の出前講座を活用した食中毒予防や夏祭りの計画・実施、認知症の理解、成年後見制度、防犯講座、防災訓練の実施を行いました。今回は、平成29年度に行った勉強会の内容についていくつか紹介します。

1. 食中毒予防について(四国中央市保健センター)

・保健師から食中毒の種類や予防のポイント等について説明していただきました。食中毒の2割は家庭でおこるために、食材選びや調理方法、調理環境に配慮することが必要になります。また、チェックーを利用して適切な手洗い方法も教わりました。食中毒を「持ち込まない」「ひろげない」「増やさない」ためにも、正しい知識を身につけておくことが必要だと感じました。

2. 成年後見制度(司法書士)

・成年後見制度の概要、後見人の業務、後見制度のメリット・デメリット、事例紹介をしていただきました。難しいイメージがありましたが、具体例をおりまぜて説明していただくことにより、今後制度をどの

ように利用していけばよいのか理解することができました。参加者自身も、これからの生活上での不安や悩みを抱えており、制度の活用方法を学ぶことにより安心感を得たようでした。

3. 防犯講座(警察署)

・施設における防犯対策の説明をしていただきました。レスポンスタイム(通報を受けて警察が到着するまでの時間)は約10分間で、この時間を職員で対応しなければならず、重要なことは被害者を出さないこと、そのためにも防犯グッズを備えておくことや防犯対策が必要だということでした。当施設では防犯カメラの設置等、ハード面はある程度整備されていますが、不審者が侵入してきた時の対応方法等、ソフト面に力を入れていくことが重要だと感じました。

4. 防災訓練

・水害を想定し、1階から2階へ階段を上がる避難誘導を行いました。階段にマットを敷き、毛布を活用し4人で誘導しようとしたのですが、4人では安定せず6人で誘導。その他にも実際に避難誘導を行ってみると課題がいくつも残る結果となりました。女性職員が多い職場なので、力任せの誘導を行うことが困難で、地域の力をお借りするのにも災害時は近隣皆被災者となっていると思われます。もしもの時に備えてスムーズな対応が出来るよう、今後も継続して行っていく必要があると感じました。





ほっと♥エピソード

日常での利用者とのさりげない感動エピソードを現場のスタッフから聞きました

東予ブロック グループホームこもれびの家 川井 勇輝さん

当ホームには広い庭があり、その一部を畑にして野菜の植え付けや収穫を行っています。利用者さんの中で、若い頃に農業を営んでいたことがある方がいらっしゃいます。その方は、居室から見える畑の様子をよく観察しており、野菜が育ってくると「だいぶ大きくなってきたなあ」「早く収穫しないといけないねえ」と職員に話しかけて下さいます。

野菜の収穫は各利用者さんと職員が合同で行います。収穫を行っている利用者さんは口々に「こんなによけ出来て凄いなあ」と話されていました。その中でも、前述の利用者さんは特に喜ばれており、「見て

ん！こんなに大きいのもあるで！」等と終始笑顔で収穫を行われていました。

私は2年ほど、その畑の管理を任されていたのですが、初めての畑作業という事もあり、なかなか作物が育たずに枯らしてしまうことが多々ありました。自分なりにインターネット等で情報収集をしながらの作業でしたが、苦悩の連続でした。ですが、その甲斐あってか、今年の6月によりやく、畑一面に野菜を実らせることに成功しました。

日々の業務の中で、利用者さんの余暇活動の充実にはそれなりの労力が伴ってくると思います。畑の管理は大変な仕事でしたが、利用者さんに喜んでいただけたことで報われたように思います。これからも、利用者さんの笑顔を第一に考え、業務に励んでいきたいと思います。

中予ブロック グループホーム はなの家 二宮 啓太さん

母や姉の影響で介護の道に進み、仕事を始めて14年目を迎えました。事業所の理念のもと「はなの家」では利用者さんに家庭的な環境の中で生活を送っていただけるよう日々対応させてもらっています。

先日、ある利用者さんとこんな出来事がありました。いつも居室で過ごすことの多いYさん。「今日は寝ておきます。起きません。」と一度もリビングへと出て来られないこともしばしば。どうすれば離床し、起きてもら

えるか、どのような声掛けをすればよいか等スタッフも頭を悩ませていました。ある日Yさんの居室の前を通ると、私の顔を見るなり「お兄さん、買い物に連れて行って！お風呂入れて！！」と言われました。急なYさんからの訴えにこちらもビックリしましたが、「私は男の人が大好きなんよ。お兄さんにしてもらいたい」と笑顔で言われた時、なんとも言えない温かい気持ちになりました。

介護は大変な仕事ですが、利用者さんから元気を頂き前向きな気持ちにさせてもらっています。そんな日々と一緒に過ごさせてもらっている利用者さんにはいつも感謝の気持ちでいっぱいです。

南予ブロック グループホーム嶺南 松田 彩音さん

介護の仕事を始めて、一年が経ちました。私は介護の知識がないままこの仕事に就職したため、初めはわからないことばかりで仕事を続けていけるのか不安でした。しかし、職場の人はとても優しく、何を聞いても丁寧に教えてくれました。また、利用者の方たちとどう接すれば

いいかわからず、最初はコミュニケーションをとることができませんでしたが、話しているうちに慣れ、今では利用者さんと話すことが楽しいです。そして、ご利用さんが楽しそうに笑っていたり、「いつもありがとう」と言っていたいた時には、介護の仕事をしてよかったといつも感じます。これからも困ったことなどがある時には職場の人に相談し、ご利用者が安心して笑顔で過ごせるよう、もっと勉強して頑張りたいと思います。

お知らせ

職員教育に熱心な事業所表彰について

平成29年度 職員教育に熱心な事業所を表彰しました。



平成29年度 研修会参加者数順位

ブロック	順位	事業所名	参加人数
東予	1位	グループホーム むつみの家	18
		グループホーム 三島の杜	18
	2位	グループホーム カミングケアステーション	17
	3位	グループホーム はなれ茶屋	16
中予	1位	グループホーム はなの家	16
	2位	グループホーム 風花	13
	3位	グループホーム ファミール立花	12
		グループホーム むく	12
		グループホーム 伊予の郷	12
		小規模多機能ホーム あったか	12
南予	1位	グループホーム 星城	34
	2位	グループホーム やまと	32
	3位	グループホーム 蒼月	30

● 愛媛県地域密着型サービス協会 研修予定 ●

	回	開催予定日	時間	場所	研修内容	講師	定員
東予地区	第1回	6 / 21 (木)	19:00~21:00	西条市西消防署	緊急時の対応 災害時の対応	西条西消防署	60名
	第2回	8 / 23 (木)	19:00~21:00	西条市 総合福祉センター	身体拘束について	愛媛県地域密着型サービス協会 大森 晋也	80名
	第3回	11 / 15 (木)	19:00~21:00	西条市 総合福祉センター	感染症対策	西条保健所	80名
	第4回	1 / 9 (木)	19:00~21:00	西条市 総合福祉センター	認知症の理解	交渉中	80名
	第5回	2 / 21 (木)	19:00~21:00	西条市 総合福祉センター	権利擁護について	一般社団法人 えひめ権利擁護センター新居浜 山本 豪 氏	80名
中予地区	第1回	6 / 14 (木)	19:00~21:00	愛媛県 総合社会福祉会館	倫理を知らずして、専門職にあらず ～倫理四原則を考える～	一般社団法人 えひめ権利擁護センター新居浜 山本 豪 氏	50名
	第2回	8 / 9 (木)	19:00~21:00	愛媛県 総合社会福祉会館	権利擁護と虐待	特別養護老人ホームつわぶき荘 入船 啓一 氏	50名
	第3回	10 / 10 (水)	19:00~21:00	愛媛県 総合社会福祉会館	医学的な知識	徳丸皮膚科クリニック 徳丸 晶 氏	50名
	第4回	12 / 11 (火)	19:00~21:00	愛媛県 総合社会福祉会館	重度化の対応 (入浴、排泄、口腔ケア、移乗、 コミュニケーション、看取り対応)	株式会社アクティブサポート 代表取締役 心身機能訓練・レクリエーション研究所 所長 作業療法士 主任介護支援専門員 藤田健次氏	50名
	第5回	1 月	19:00~21:00	愛媛県 総合社会福祉会館	メンタルヘルス 職員間のコミュニケーション	交渉中	50名
南予地区	第1回	6 / 14 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	認知症について	株響 代表取締役 井上 和弘 氏	60名
	第2回	8 / 23 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	倫理と尊厳について	特別養護老人ホームつわぶき荘 入船 啓一 氏	60名
	第3回	10 / 18 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	検討中	正光会 宇和島病院 渡部 亜矢子 氏	60名
	第4回	11 / 15 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	感染予防	南エンジェル・コール 代表取締役 越野 文枝 氏	60名
	第5回	1 / 17 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	口腔ケアの重要性	瀬尾歯科医院 院長 瀬尾 達志 氏	60名
	第6回	2 / 21 (木)	13:30~15:30	西予市 教育保健センター	検討中	認知症介護実践者研修講師 森川 隆 氏	60名

※会場の都合により、日程が変更になることもございますので、ご了承ください。

● 小規模ネットワーク学習会 ●

回	開催予定日	時間	場所	研修内容	講師	定員
第1回	7 / 12 (木)	13:30~15:30	愛媛県 総合社会福祉会館	小多機のオリジナリティを考える① 小多機ならではの「訪問」とは何か？ 他のサービスとの違いを考える	ネットワーク委員会	30名
第2回	10月	13:30~15:30	愛媛県 総合社会福祉会館	小多機のオリジナリティを考える② 小多機ならではの「通い」とは何か？ 他のサービスとの違いを考える	ネットワーク委員会	30名
第3回	1月	13:30~15:30	愛媛県 総合社会福祉会館	小多機のオリジナリティを考える③ 小多機ならではの「泊まり」とは何か？ 他のサービスとの違いを考える	ネットワーク委員会	30名
第4回	3月	13:30~15:30	愛媛県 総合社会福祉会館	小多機のオリジナリティを考える④ 地域での暮らしを実現するために	ネットワーク委員会	30名

※会場の都合により、日程が変更になることもございますので、ご了承ください。

● グループホームネットワーク学習会 ●

回	開催予定日	時間	場所	研修内容	講師	定員
第1回	10月～1月	13:30～15:30	西予市 教育保健センター	グループホームのあり方を再考しよう ～新サービス評価を活用する～	ネットワーク委員会	30名
第2回		13:30～15:30	西条市 総合福祉センター			30名
第3回		13:30～15:30	愛媛県 総合社会福祉会館			30名

※会場の都合により、日程が変更になることもございますので、ご了承ください。

● デイネットワーク学習会 ●

回	開催予定日	時間	場所	研修内容	講師	定員
第1回	7 / 12 (木)	13:30～15:30	愛媛県 生涯学習センター	小規模デイのオリジナリティを考える① 制度上の仕組みを理解しよう	ネットワーク委員会	20名
第2回	10月	13:30～15:30	愛媛県 総合社会福祉会館	小規模デイのオリジナリティを考える② 支援のあり方を考えよう (小規模ネット学習会と合同開催)	ネットワーク委員会	20名
第3回	1月	13:30～15:30	愛媛県 生涯学習センター	小規模デイのオリジナリティを考える③ 環境をどう活用するか考えよう	ネットワーク委員会	20名

※会場の都合により、日程が変更になることもございますので、ご了承ください。

● 合同研修会 ●

チャレンジ!

職員を育て、事業所を育てる!!

～共に学ぼう、明日から活かせる効果的な人材育成の方法～

「採用してもすぐ辞めてしまう」「新人ばかりで核となる人材がおらず、現場が回らない」「ぎりぎりの人員配置なので研修の時間が取れない」「中途採用が多く、仕事の仕方や考え方が違い、全体的な意識の統一が図りにくい」等々、介護現場からはこうした多くの声があがっています。介護人材の不足が深刻化する中、職員の確保や定着は安定した事業運営を行っていく上で不可欠な要素であり、職員の育成は事業所の質を向上させていく上でも重要な取り組み課題です。

今年度の合同研修会は、実践報告を通して職員育成の方法や具体的な展開について学び合い、これからの取り組みに役立つヒントを持ち帰る機会にしたいと考えています。

- 開催日
平成30年9月21日(金)13:30～16:30
- 開催場所
テクノプラザ愛媛 テクノホール
(松山市久米窪田町337番地1)
- 内 容
第一部：実践報告
第二部：講演会「職場内教育(OJT)の方法と展開」
講師：認知症介護研究・研修東京センター
研修企画主幹 中村 考一氏



● 調理とレクリエーション研修 ●

今年度2年目の研修会です。県内地域密着型サービス事業所介護職員を対象に調理技術とレクリエーション技術に関する研修会を開催し利用者の日常生活を支援するためのスキル向上を図ります。

- 開催日
平成30年12月上旬開催予定
- 開催場所
●東予(西条市) ●中予(松前町) ●南予(西予市)
- 内 容
調理技術、レクリエーション技術等
すぐに活用できる内容です。

● 認知症介護基礎研修 ●

今年度は、東予中予南予の各地区1回開催。

職員の方ならどなたでも受講可能です。※地域に関係なく受講できます。

愛媛県内の介護保険施設・事業所等において介護業務に従事する介護職員等で、認知症介護の基礎的な知識や技術を身につけたい方
※新任(概ね2年未満)の介護職員及び無資格で従事する方を想定した内容のカリキュラムです。

【南予】研修期間●平成30年9月14日(金) ※7月10日でしたが、豪雨災害のため延期して実施
実施場所●西予市教育保健センター大ホール
(西予市宇和町卯之町)

【東予】研修期間●平成30年8月8日(水)
実施場所●西条市地域創生センター大研修室
(西条市ひうち)

【中予】研修期間●平成30年11月6日(火)
実施場所●愛媛県生涯学習センター 4階大研修室
(松山市上野町)

受講定員●各定員60名

※受講を希望される方は当協会のホームページをご覧ください。

● 認知症介護実践者研修 ●

<第1期日程>

開催日●平成30年6月20日(水)～24日(日)
平成30年8月13日(月)

会場●愛媛県生涯学習センター
(松山市上野町)

受講定員●60名 ※終了しました

<第2期日程>

開催日●平成30年11月20日(火)～24日(土)
平成31年1月11日(金)

会場●愛媛県生涯学習センター
(松山市上野町)

受講定員●60名

※第2期の募集に関する詳細は8月上旬ごろ
協会ホームページをご覧ください。

県内事業所の紹介

東 予

① グループホーム竹梅小路(西条市)

② 小規模多機能新町(上島町)

③ グループホームさくらや(上島町)

中 予

④ 小規模多機能いちえい日招きの里(松山市)

⑤ 地域密着型特別養護老人ホームほのか(今治市)

② 小規模多機能 新町

■登録定員数25名 *通い定員数15名 *宿泊定員数8名

「その人を尊重し、笑顔の人生になれるよう支援します。」を運営理念とし、ご利用者様お一人お一人の容態やご要望に応じた介護サービスをご提供させていただきます。

住み慣れた家や地域で安心して生活できるように、通っても泊ってもいつも顔なじみの方と同じ空間で落ち着いて過ごしていただける環境を作りました。

ぜひ、お気軽にお問合せください!

ウマ商事株式会社 〒799-0405 四国中央市三島中央3丁目11-38
TEL:0896-23-6500 FAX:0896-23-7300

④ 小規模多機能 いちえい日招きの里

■登録定員数29名 *通い定員数18名 *宿泊定員数9名

「小規模多機能いちえい日招きの里」は、平成29年2月にサービス付き高齢者向け住宅を併設し、開設致しました。スタッフ一同、「笑顔」を大切に利用者様とご家族と地域が共に寄り添いながら歩んでいける、そういった介護を職員一丸となって頑張っていきます。「小規模多機能いちえい保免」や、地域医療との連携により、柔軟な対応が出来るサポート体制を強化しております。



〒790-0043 松山市保免西1丁目5番24号
TEL:089-974-2024 FAX:089-973-2024

① グループホーム 竹梅小路

■2ユニット18名

平成29年6月に開設したばかりのグループホームです。「一人一人を大切に 和を大切に」の運営理念のもと、ご利用者お一人お一人に寄り添った支援をしています。近隣には、市役所や病院、スーパーなども多く、ご家族や地域の方々にいつでも気軽にお立ち寄りいただける施設です。また、法人内の他事業所とも連携し、重度化された方への継続的なサポート体制も強化しております。どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

社会福祉法人 亀天会 〒793-0022 西条市本町48番
TEL:0897-58-5252 FAX:0897-58-5253

③ グループホーム さくらや

■2ユニット18名

瀬戸の小島、岩城にあるグループホームさくらや。スタッフと住人(入居者)さんとが、笑ったり、ときにはケンカしたりしながら、のんきな毎日を送っています。天気の良い日はさくらやの前のさくら畑で過ごすのがお気に入り。

さくらやの日々を綴ったブログもご覧くださいませ!

ブログ: <https://ameblo.jp/sakuraya-kamijima>



株式会社 幸福丸 〒794-2410 越智郡上島町岩城2239番地
TEL:0897-72-9394

⑤ 地域密着型特別養護老人ホーム ほのか

■利用定員数29名

地域密着型特別養護老人ホームほのかは平成29年4月に開設しました。

当施設では入居者が住み慣れた地域で可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう日常生活支援や機能訓練等のサービスを提供しています。

明るく家族的で親密なサービスを提供する他、地域行事等地域との結びつきを重視した運営を行ってまいります。

社会福祉法人 来島会 〒799-2113 今治市高部甲535番地1
TEL:0898-52-7100 FAX:0898-52-7101

会員事業所

★…新規加入事業所

認知症対応型共同生活介護

グループホーム あおぞら
グループホーム あしよかの里
あったかほーむ たかつ
グループホーム あんど
グループホーム いしかわ
グループホーム 恵須栄
グループホーム おくじま
グループホーム おてだま
グループホーム 香り草
グループホーム かがやき
グループホーム 鶴翠
グループホーム 上の茶屋
グループホーム 亀天福寿苑
グループホーム かわせみ
グループホーム 小松の里
グループホーム こもれびの家
グループホーム さくらや★
グループホーム 下の茶屋
グループホーム 新町
グループホーム 水車の家
グループホーム 瑞鳳荘
グループホーム ステラ
グループホーム 関前
グループホーム 多賀の里
グループホーム 竹梅小路★
グループホーム 竹トンボ
グループホーム 丹原の郷
グループホーム 集い
グループホーム テレサ
グループホーム とらや
グループホーム 虹の里
グループホーム ハートフルケアホーム青空
グループホーム はとり
グループホーム はなれ茶屋
グループホーム パラディ
グループホーム 陽だまり
グループホーム ひまわり
グループホーム ヒロセ
グループホーム ふたばの森
グループホーム フルーツの家
グループホーム ほっとやまうち
グループホーム ほの花
グループホーム 微笑の家
グループホーム まなべ
グループホーム 三島の杜
グループホーム 緑の家
グループホーム むつみの家
グループホーム 桃太郎
グループホーム 杜の家
グループホーム 「やすらぎ」

東予

グループホーム ゆいの家
グループホーム ゆいの里
グループホーム ゆう(都市型)
グループホーム タ日館
グループホーム ラ・ファミーユ
グループホーム レオナ
グループホーム LOHAS・KOTI
グループホーム 愛松園
グループホーム 青い鳥
グループホーム あき
グループホーム アショカ
アトラス馬木
グループホーム あんじゅ
グループホーム いくし
グループホーム 憩の郷
グループホーム いしい
グループホーム いしい和泉★
グループホーム いだい
グループホーム 伊予の郷
グループホーム ウェルケアみどろ
グループホーム 梅本の里
グループホーム エンゼルなかかわら
グループホーム おあしす
グループホーム おきた
グループホーム 風花
グループホーム 経井沢
グループホーム くまた
ぐるうぶほうむ54番地
グループホーム ごこしま
グループホーム こころ
グループホーム こころ今出
グループホーム コミュニティハウス北条
グループホーム さくら
グループホーム 里山
グループホーム 斎院の杜
グループホーム サマリヤの家
グループホーム しいのみ
グループホーム シオンの家
グループホーム 重信の郷
グループホーム じゃんけんぼん
グループホーム しらさぎの里
グループホーム しらゆり
グループホーム 泰皇
グループホーム すまいる
グループホーム 清風
グループホーム セト
グループホーム たいさんじ
グループホーム だんだん
グループホーム つかさ
グループホーム つじい
グループホーム つばきクリニック
グループホーム つばきの家
グループホーム つばきの里
グループホーム つばさ
トータルケアサポート花みずき

中予

中予

グループホーム 土香里
グループホーム とみひさ
ニチケアセンター松山
グループホーム はあと
グループホーム パートナーハウスこすもす
グループホーム はなの家
グループホーム 浜っ子
グループホーム ひがし野
グループホーム ひなたぼっこ
グループホーム 媛のくに
グループホーム 媛の華
グループホーム ファミール桑原
グループホーム ファミール立花
グループホーム ぶうさんのおうち
グループホーム ふくずみ
グループホーム フレンド
グループホーム ぽかぽか
グループホーム ぽかぽか(ふたみ)
グループホーム 星岡
グループホーム みつはま
グループホーム ミネルワ
グループホーム 御幸の杜
グループホーム むく
グループホーム やわらぎ
グループホーム やわらぎ川内
グループホーム ゆうかの里
グループホーム 優輝
グループホーム ユニッティいよ
グループホーム ユニッティぐんちゅう
グループホーム ユニッティまつやま
グループホーム 四ツ葉
グループホーム よろこび
グループホーム ルンビニー
グループホーム わかば
グループホーム 我が家
グループホーム あいの里
グループホーム あおぞら
グループホーム あかり
グループホーム 明浜館
グループホーム あけぼの
グループホーム 阿蔵の森
グループホーム あまご
グループホーム いぶき
グループホーム うちこ園
グループホーム うつのみやさんの家
グループホーム 宇和ひまわり
グループホーム 柿の里
グループホーム かぐや姫
グループホーム 紙ふうせん
グループホーム きらり
グループホーム 銀河
グループホーム 慶雲
グループホーム さくら
グループホーム さくらさく
グループホーム サルビア

南予

グループホーム しおり
グループホーム 昂星
グループホーム 星城
グループホーム 早雲
グループホーム 蒼月
グループホーム 竹の園
グループホーム つしま
グループホーム つるかめ
グループホーム 橙園
グループホーム 虹
グループホーム 虹の森
ニチケアセンター八幡浜
グループホーム のぞみ・ささえ
グループホーム 白雲
パートナーハウスたんぼぼ
グループホーム はるか
グループホーム 春のうらら
グループホーム 春の風
グループホーム 福寿草
グループホーム まほろば
グループホーム 丸の内はとぼっぱ
グループホーム 三崎つむぎ荘
グループホーム みしょうの里
グループホーム 紅葉の里・おだ
グループホーム もみの木
グループホーム 薬師谷マナー
グループホーム やすらぎ
グループホーム やすらぎの家
グループホーム やまと
グループホーム ゆう
グループホーム ゆうなぎ
グループホーム 優瑠里
グループホーム よしの里
グループホーム 楽生苑
グループホーム 蘭
グループホーム 龍星
グループホーム 嶺南

南予

小規模多機能型居宅介護

小規模多機能型居宅介護 あゆみ
小規模多機能型 いよ路
おかげさん
小規模多機能型居宅介護事業所 厚生倶楽部
小規模多機能型居宅介護 さざえもん
小規模多機能 新町★
小規模多機能ホーム トータルケア今井
今治市社協小規模多機能 ゆいの村
小規模多機能型居宅介護 山田井の郷
小規模多機能型居宅介護事業所 山あけいばり元気まんてん★
小規模多機能ホーム あったか
小規模多機能ホーム いしい
小規模多機能ホーム いしい和泉★
小規模多機能 いちえい日招きの里★
小規模多機能 いちえい保免
小規模多機能型居宅介護事業所 ウェルケア高浜

東予

中予

小規模多機能 馬木
小規模多機能ホーム ここえ★
小規模多機能ホーム 三町
しょうぎばたきのうほうむ3丁目
小規模多機能ホームスマイル ごしき
小規模多機能センター たのくぼ
小規模多機能ホーム だんだん
小規模多機能ホーム つむぎ
小規模多機能ホーム つよし
小規模多機能ホーム てとて
小規模多機能 にじいる
小規模多機能 ひまわりのたね
小規模多機能型介護 楓華
小規模多機能 歩風里
小規模多機能ホーム メサイア
小規模多機能ホーム やわらぎ
小規模多機能型居宅介護 やわらぎいくし村
小規模多機能ホーム ゆうゆう
小規模多機能型居宅介護事業所 あおぞら
小規模多機能居宅介護 亀の郷
小規模多機能ホーム きずな
小規模多機能型居宅介護事業所 さくら
小規模多機能型居宅介護 橙園
小規模多機能型居宅介護 虹の森
小規模多機能型居宅介護事業所 ほのぼの
小規模多機能居宅介護 ほほえみ
小規模多機能型居宅介護 めぐみ

中予

南予

認知症対応型通所介護

東予	デイサービスセンター 三島の杜
中予	認知症デイサービスビバーラ

地域密着型通所介護

東予	デイサービスはっぴい横丁
中予	たちばなの家 じゃんけんぼん★
南予	デイサービス新谷の家
南予	デイサービス花

地域密着型介護老人福祉施設

東予	ユニット型地域密着型介護老人福祉施設 うみかぜ
	地域密着型特別養護老人ホーム かのこ
	地域密着型小規模特別養護老人ホーム なの花
	地域密着型介護老人福祉施設 三島の杜
	地域密着型特別養護老人ホーム ほのか★
南予	小規模特養 いづみ

看護小規模多機能居宅介護

東予	複合型事業所 仲まち
中予	ほのかのぬくもり

通所介護(準会員)

中予	訪問看護 みかん
南予	デイサービス ほで

<平成30年6月30日現在>



「人を動かす」

デール・カーネギー

<創元社>

この本は、平成23年頃に施設内のリーダー会での勉強会に使っていた一冊です。その頃の私は、日夜『スタッフのベクトルを合わせるにはどうすればいいのだろう。』ということばかり考え続け、

<この本の推薦者>

委員 井上真喜子

それを実行し、結局何をしてもうまくいかずということを繰り返していました。この本に書かれていることは、実に当たり前で納得のいくことばかりです。ですが、わかっちゃいるのに出来ていない事ばかりでもありました。あれから7年…改めて「人を動かす」を読んでみて、相変わらず出来ていない自分に愕然としております。日頃の忙しさを言い訳にして、出来ていない自分を正当化している情けない自分がここにいます。この時期に、またこの本を読む機会を与えてくれたのも、もう一度初心に戻りなさいということなんだろうと思います。何もかもを完璧には無理でも、週に1回ずつ、この本を広げるだけでも何かがかわってくるんじゃないかと思っています。この本の最後には『幸福な家庭を作る7原則』も収録されています。

皆さんも是非この本を読んで、仕事でも家庭でもハッピーな日々をお過ごしください(^_^)



愛媛県松山市
小規模多機能ホーム
ウェルケア高浜

河野 都

認知症ケアの一環として、音楽を利用者と共有することにより、心身が健康になり、一日でも長く笑顔の時間が持てるよう取り組んでいます。ギター演奏による音楽会を行っています。

ギターに触れたことがない方ばかりですが、スタッフの動きを真似て弦を弾き、リズムを取りながら他の方と一緒に歌って楽しんでいます。(歌は皆様になじみのある昔の曲を歌っています。)一緒に演奏し、一緒に歌うという空間を参加者と共有することで、笑顔や他の方とのコミュニケーションも増えています。



うちの
かんぱんりレー
エピソード募集!

事業所で「大切にしている動物」、「思い入れのある物」との心温まるエピソードを募集しています。ぜひ紹介したいと希望される事業所は、事務局までご連絡ください。

ちょっとおでかけ おすすめスポット紹介



「道の駅 内子フレッシュパーク からり」では、内子町内で育てられた野菜や果物、また、それをもとに加工した食品などが販売されています。季節の特産品で作られたジェラートや内子豚の入ったハンバーガーも販売されており、内子の味を楽しみながら休憩をする事が出来ます。また、レストランやパン屋さん、うどん屋さんも併設されており、お昼ご飯を頂くこともできます。皆さんも是非、内子町の特産品で舌鼓を打ちに来てください。



連絡先 愛媛県内子町内子2452番地
TEL 0893-43-1122
営業時間 9:00~17:00
入場料 無料
設備 ●身体障害者用トイレあり ●スロープあり
●飲食スペースあり

編集
後記

この度の西日本豪雨により、被災された皆さまにお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心からお祈りしております。
さて、今年度から紙面をリニューアルしました。皆さまに役立つ広報誌となるよう、今後も工夫を重ねてまいりますので、ご意見、ご感想をお寄せください。宜しくをお願い致します。(広報委員一同)